



『東北圏だより』

宮城県の鉄道の復旧状況

宮城県

宮城県の鉄道は、在来線と第三セクター鉄道を合わせて10路線が運行していますが、東日本大震災により沿岸部の常磐線、仙石線、石巻線、気仙沼線、大船渡線のJR5路線は特に甚大な被害を受けました。

JR東日本をはじめとした関係者による懸命な復旧工事により、震災後早期に運行再開した区間がありました。津波による被害が大きかった区間では、沿線自治体の復興まちづくりと合わせて安全な鉄道として整備するための内陸移設工事が行われてきました。このような中、東日本大震災発生から約4年を経た本年3月21日に、石巻線が県内沿岸部の被災路線として初めて全線運行再開し、また、5月30日には、仙石線も全線運行再開をしました。

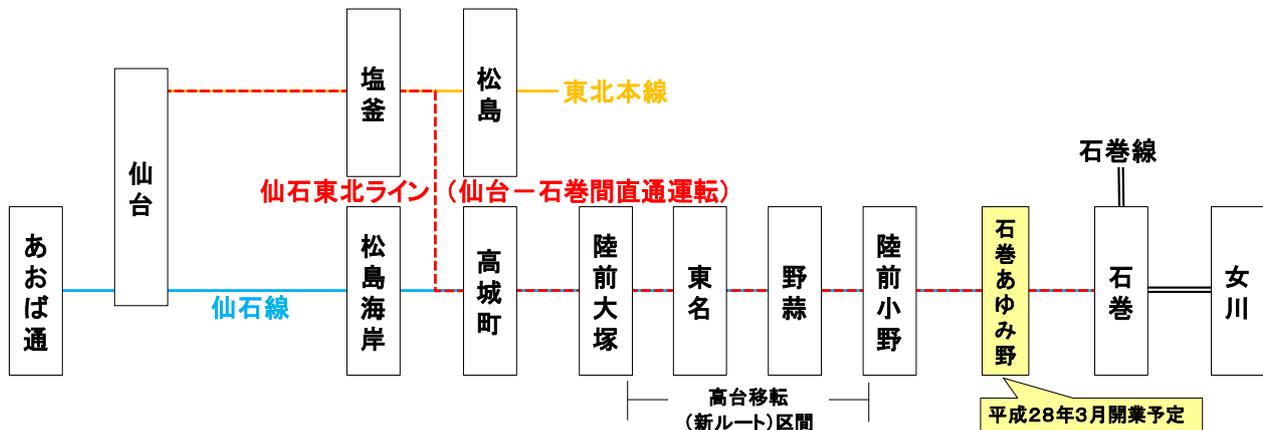
仙石線は、甚大な被害を受けた陸前大塚～陸前小野間の運休区間が、復興まちづくりの高台移転事業に合わせて整備され、野蒜駅と東名駅も内陸に500メートルほど移設されました。さらに、仙石線と東北本線を結ぶ接続線を利用して新型ディーゼルハイブリッド車両が運行する「仙石東北ライン」が開業したことで、仙台～石巻間は、震災前の最速快速列車と比較して所要時間が約12分短縮され、最速52分で結ばれています。また、平成28年3月には、石巻市の蛇田地区に整備が進められている復興土地地区画整理事業地に隣接して、新駅となる「石巻あゆみ野駅」の設置が予定されています。

残る3路線については、常磐線は平成29年春の運行再開に向け、浜吉田～駒ヶ嶺間で内陸移設工事が進められており、気仙沼線及び大船渡線については、国主催の沿線自治体首長会議で復旧に関する協議が進められています。

鉄道の復旧は、沿線住民の方々の生活の足としての利便性の向上だけでなく、沿線地域の産業・経済・観光の振興に大きな波及効果をもたらし、地域の再生と発展を牽引する大きな力となるものなので、一日も早い復旧が待ち望まれるところです。



▲仙石東北ラインを運行するディーゼルハイブリッド車両



▲運行再開・新たに開業した鉄道の路線図

全国各地において、地域の魅力や個性を創出している、良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を、好事例として広く紹介することで、個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が進むことを目指し、「手づくり郷土賞」として表彰しています。「手づくり郷土賞」は昭和61年度に創設され、今年度で30回目の開催となる国土交通大臣表彰です。

「手づくり郷土賞」の募集は、一般部門と大賞部門の2つの部門で募集をしております。一般部門では、地域の魅力や個性を創出している、社会資本及びそれと関わりのある地域活動が一体となった成果を対象としており、大賞部門では、これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した、社会資本又は社会資本と関わりのある地域活動が一体となった成果を対象としております。

今年度は、8月10日～10月9日の間で募集しておりますので、身近に応募できる取り組み等がございましたら、ぜひ応募をお待ちしています。東北の魅力ある地域づくりを全国に発信しましょう！

以下は、今年度の募集内容と昨年度、東北地方整備局管内から受賞した、福島県昭和村『室町時代からの伝統技術「からむし生産」伝承とからむし織姫』（昭和村からむし生産技術保存協会）の取組内容です。

【手づくり郷土賞ホームページ】

<http://www.thr.mlit.go.jp/Bumon/B00097/K00360/tezukurifurusato/index.html>

概要

全国各地において、地域固有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な地域資源として再認識し積極的に活用した、魅力ある地域づくりに成功している事例が数多く見受けられます。このように、地域の魅力や個性を創出している良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果として発掘し、「手づくり郷土賞」として表彰するとともに、好事例として広く紹介することにより、各地で個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が一層推進されることを目指しています。
「手づくり郷土賞」は昭和61年度に創設され、平成27年度で30回目の開催となる国土交通大臣表彰です。

平成26年度 手づくり郷土賞一般部門受賞
福島県昭和村からむし生産技術保存協会の取組



▲昭和村の一大拠点である「からむし織の里」

募集対象

一般部門

地域の魅力や個性を創出している、社会資本*及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果

*原則として社会資本は国土交通省が所管するもの

大賞部門

これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動を含む成果
(例えば、これまでに受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動を含み内容が更に充実している成果、これまでに受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動を核とした周辺エリアを含む成果など)

応募方法

■応募団体（各部門共通）

社会資本を有効活用し地域づくりに取り組む活動団体が単体、又は社会資本を管理する地方公共団体（都道府県、市区町村）との共同で応募するものとします。

■応募資料

① 応募用紙及び参考資料とその電子データ

※応募要領及び応募用紙については、国土交通省ホームページよりダウンロードしてください。
(http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/te dukuri/what_furusato/what_furusato.html)

■応募方法

応募資料を、募集期間内にお近くの各地方整備局等に提出してください。提出された応募資料は各地方整備局等にて取りまとめの後、国土交通本省に提出されます。「手づくり郷土賞」の対象とならないものがあつた場合は、各地方整備局等より、その旨通知いたします。

■30周年の取組について

平成27年度は、手づくり郷土賞創設30周年を迎える節目であり、一般部門では応募者によるプレゼンテーションや公開審査を新たに実施します。



▲「からむし織」を体験する様子



▲からむしの刈り取りを体験する様子

問い合わせ先

○各地方整備局等（応募資料提出先）

北海道開発局 開発監理部 開発調整課	TEL：011-709-2311	札幌市北区北八条西2丁目
東北地方整備局 企画部 企画課	TEL：022-225-2171	仙台市青葉区二日町9-15
関東地方整備局 企画部 広域計画課	TEL：048-600-1330	さいたま市中央区新都心2-1
北陸地方整備局 企画部 広域計画課	TEL：025-370-6687	新潟市中央区美咲町1-1-1
中部地方整備局 企画部 企画課	TEL：052-953-8127	名古屋市中区三の丸2-5-1
近畿地方整備局 企画部 企画課	TEL：06-6942-1141	大阪市中央区大手前1-5-44
中国地方整備局 企画部 広域計画課	TEL：082-511-6120	広島市中区上八丁堀6-30
四国地方整備局 企画部 企画課	TEL：087-811-8309	高松市サンポート3-33
九州地方整備局 企画部 企画課	TEL：092-471-6331	福岡市博多区博多駅東2-10-7
沖縄総合事務局 開発建設部 建設行政課	TEL：098-866-1908	那覇市おもろまち2-1-1

○事務局

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 TEL：03-5253-8111 東京都千代田区霞が関2-1-3



▲道の駅開所式の様子

東北観光復興加速化会議を開催

東北運輸局

平成 27 年 8 月 2 日（日）、ホテルメトロポリタン仙台にて、東北観光復興加速化会議を開催いたしました。

この会議は、震災により減少した東北地域の観光需要回復のために、官民一致団結して各種施策を強力に推進することを目的に、観光庁の呼びかけで行われたもので、当日は、西村明宏国土交通副大臣を座長に、東北の観光復興に携わる 25 名のキーパーソンが一堂に会しました。

まずは自治体からの現状説明があり、発表者全員が共通の危機感として挙げたのが観光客数、特にインバウンド（訪日外国人）の伸び悩みです。その解決のため、仙台空港民営化を契機とする航空版観光キャンペーンの計画。コンベンション誘致の注力と東北全体としての魅力発信の重要性。世界遺産等を周遊する観光ルートの開発等の話がされ、東北観光推進機構からは、東北の観光を世界に向けてプロモーションするための統一ロゴ・マークについて紹介がありました。

次に、久保観光庁長官から「観光立国実現に向けたアクション・プログラム 2015」で採択された 7 つの広域観光周遊ルートの中に、東北エリアの「日本の奥の院・東北探訪ルート」が認定されたことを受け、さらなるルートの磨き上げの必要性。永松東北運輸局長からは「ビジットジャパン地方連携事業」の事例説明、川瀧弘之東北地方整備局長からは観光に必須である道路等のインフラ整備の進捗について説明を行いました。

さらに、三陸鉄道から、交流人口拡大のための地域と連携した事業。松島観光協会から松島観光における交通の課題と広域観光の可能性を示唆。福島県女将会からは、いわき湯本温泉が新たに取り組む「フラのまち宣言」等の地域の最前線の取り組み紹介がありました。

その後、各業界からの取り組みや課題等について意見交換がなされ、東京オリンピック・パラリンピックに向けた大きなエネルギーを東北観光に向けていきたい意向や、東北のあるがままの魅力の発信と受入れ体制強化の必要性が示され、有意義な意見交換がなされた会議は、官民足並みをそろえて東北観光振興に向けて進んでいきたい、という西村国土交通副大臣による力強いメッセージを共有して幕を閉じました。



訪日外国人旅行者数 2000 万人受入に向けた中間とりまとめ

東北運輸局

昨年の訪日外国人旅行者は日本全体としては、1341 万人と過去最高を記録し、非常に好調となっております。一方で、東京や大阪では、時期によってはすでにホテルや貸切バスが足りなくなっているという話も聞かなか、政府目標である 2000 万人を確実に達成するため、外国人旅行者の受入環境整備を図ることを目的に全国 10 ブロックで、地域の関係者を集めた連絡会を開催しております。

東北地方にも訪日外国人による経済効果をしっかり波及させたいと考えており、様々な関係者のご参画を得て、外国人旅行者受入の課題を、いまからしっかり把握し、必要な手立てを迅速に講じることを目的として、この連絡会を 3 月に立ち上げております。

これまで 3 回のワーキンググループを通じ、各方面に調査を実施させて頂き、その結果としての東北地域の課題と対応方策について、8 月 4 日開催のブロック別連絡会により中間とりまとめを行っております。

【→次頁へ続く】

中間取りまとめは、訪日外国人旅行者を受け入れるにあたり、主要観光地、観光施設、空港、港湾、交通事業者等の受入先が抱えている課題を明らかにするための調査を行い、施設容量、多言語対応、情報発信、消費環境、Wi-Fi 整備等の現状、課題について、関係者間で共有することを目的としております。

東北地域の外国人旅行者については、残念ながら未だ震災前の水準に比して7割弱の回復にとどまっており、日本の中で取り残されているのが実状です。今後、この連絡会やワーキンググループを通じ、中間とりまとめをベースに更に分析・検討を進め、課題に一体となって取組むことで、東北の外国人旅行者の受入環境の整備を促進し、旅行者の拡大を目指します。



第3回 東北圏広域地方計画改定に関する有識者懇談会について

東北圏広域地方計画推進室

東北圏広域地方計画協議会では、新たな東北圏広域地方計画の策定に向けて鋭意作業を進めており、去る8月24日（月）に第3回東北圏広域地方計画改定に関する有識者懇談会が開催されました。

始めに、事務局より東北圏広域地方計画改定に関するスケジュール、中間整理（案）及び広域連携プロジェクト骨子（案）等について説明を行い、その後、各委員による意見交換が行われました。

今回の有識者懇談会でも、各委員より様々な視点からの意見を頂戴しました。

なお、議事要旨は近日中に東北圏広域地方計画ホームページに掲載する予定です。

→<http://www.thr.mlit.go.jp/kokudo/kaitei/kaiteiyuushiki03.html>

編集後記

先月前半は猛暑が続き体力的に厳しく、このまま暑い日が続くかと思いましたが、後半は曇りや雨の日が多く、短かった梅雨がまた戻ってきたような印象でした。今月に入っても雨の日が多く、災害も発生していることから、危機を察知するアンテナを高くして情報収集に努め、様々な災害に備えて万全の体制を整えましょう。

話しは変わりまして、先月は24日の有識者懇談会、31日の検討会議と立て続けに会議を開催し、構成機関の皆様には大変お忙しいところご出席いただき、ありがとうございました。新たな東北圏広域地方計画の策定まで、各構成機関の皆様と連携を取りながら進めて参りたいと思いますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp